

IV-2-1 中部

令和6年能登半島地震が発生、観光産業に大きな打撃
「ベストツーリズムビレッジ」に中部から2地域が認定

(1) 都道府県レベルの旅行者動向

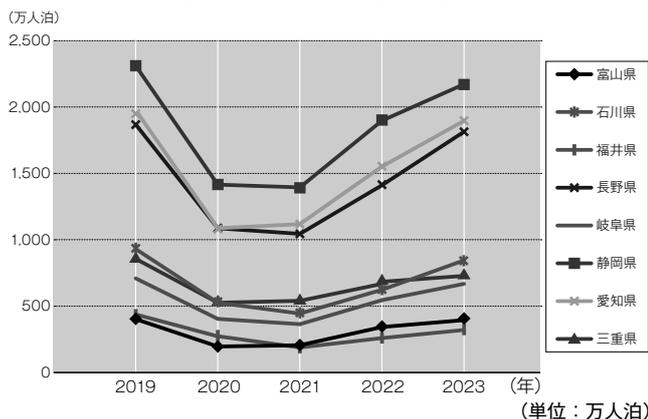
観光庁「宿泊旅行統計調査」によると、2023年1月から12月の中部地方8県の延べ宿泊者数は、前年比21.8%増の8,893万人泊であった。伸び率は前年(33.8%増)よりやや鈍化したものの、2年連続の増加となった(図IV-2-1-1)。

県別に見ると、延べ宿泊者数が最も多いのは静岡県で、愛知県、長野県と続く。いずれの県も前年より増加しており、増加率の大きい順に石川県(33.2%増)、富山県(28.2%増)、岐阜県(27.8%増)、長野県(26.8%増)、福井県(19.7%増)、静岡県(19.4%増)、愛知県(19.3%増)、三重県(6.6%増)であった。

また、外国人の延べ宿泊者数は中部地方全体で717万人泊であった。2年連続の増加で、前年比613.7%増と大幅な伸びを示している(図IV-2-1-2)。

県別に見ると、外国人延べ宿泊者数が最も多いのは愛知県で、長野県、岐阜県と続く。いずれの県も前年より大幅に増加しており、増加率の大きい順に石川県(1078.2%増)、岐阜県(801.6%増)、長野県(730.1%増)、静岡県(511.3%増)、愛知県(486.6%増)、富山県(466.1%増)、福井県(420.9%増)、三重県(312.5%増)であった。

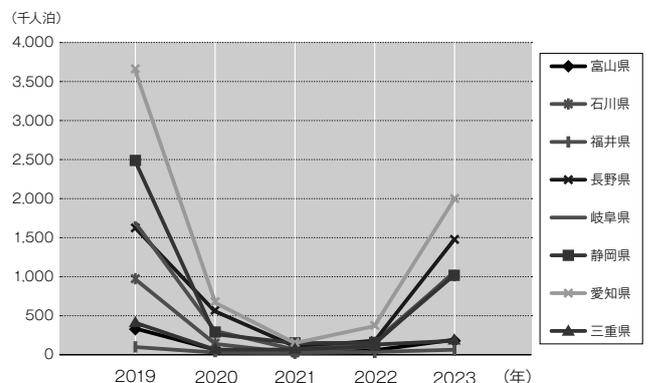
図IV-2-1-1 延べ宿泊者数の推移(中部)



都道府県名	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
富山県	381	223	239	307	393
石川県	920	520	445	655	873
福井県	414	256	233	271	324
長野県	1,805	1,124	1,084	1,417	1,797
岐阜県	730	450	376	549	701
静岡県	2,343	1,437	1,426	1,831	2,186
愛知県	1,934	1,107	1,134	1,581	1,886
三重県	860	507	518	688	734

資料:観光庁「宿泊旅行統計調査」をもとに(公財)日本交通公社作成

図IV-2-1-2 外国人延べ宿泊者数の推移(中部)



(単位:千人泊)

都道府県名	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
富山県	358	51	11	42	236
石川県	985	189	13	87	1,028
福井県	98	23	9	12	65
長野県	1,578	527	63	180	1,493
岐阜県	1,660	290	31	122	1,096
静岡県	2,494	267	93	171	1,045
愛知県	3,634	660	108	342	2,009
三重県	389	59	17	49	201

資料:観光庁「宿泊旅行統計調査」をもとに(公財)日本交通公社作成

(2) 観光地の主な動向

① 地方・都道府県レベル

● 観光計画等の策定・更新(愛知県、三重県)

愛知県は2024年度から2026年度の3年間を計画期間とする「あいち観光戦略2024-2026」を2024年2月に策定した。この戦略では「「さすが」と言いたくなる「観光県・あいち」-あいち「ツーリズム2.0-【革新・成長】【持続可能】【高付加価値】」を目指す姿として位置付けており、その実現のため「高付加価値化の推進」等、4つの基本方針を定めている。

また、三重県は2024年度から2026年度の3年間を計画期間とする「三重県観光振興基本計画」を2024年3月に策定した。この計画では「旅行者よし、事業者よし、地域住民よしの持続可能な観光地」を10年後の目指す姿として位置付けており、その実現のため「質が高く、持続可能な観光地づくり」等、3つの施策の柱を定めている。

● 令和6年能登半島地震が発生、観光産業にも大きな打撃

2024年1月1日、石川県能登地方を震源とするマグニチュード7.6の地震が発生し、石川県輪島市、志賀町で最大震度7を観測した。この地震により石川県能登地方を中心に北陸各地で大きな被害が発生し、観光面でも大きな打撃を受けた。

○ 観光施設の被害状況

国土交通省の資料によると、2024年7月30日時点で石川、富山、新潟3県の観光施設100軒がガラス破損等の被害を受けた。

また、宿泊施設では、石川県内で七尾市23軒、輪島市17軒、加賀市14軒をはじめとして計88軒が全壊・半壊・一部損傷の被害、富山県内で63軒がエレベーター停止等の被害を受けた。

石川県内の観光施設の主な被害や営業の状況は表IV-2-1-1のとおり。

表IV-2-1-1 令和6年能登半島地震による観光施設の主な被害状況(2024年7月末時点)

所在地	施設名	被害・営業の状況
七尾市	石川県七尾美術館	休業中
	石川県能登島ガラス美術館	7月20日より一部再開(9月20日まで)
	なかじま猿田彦温泉いやしの湯	休業中
	七尾城史資料館	4月11日より再開
	のと里山里海ミュージアム	4月27日より再開
	能登島ガラス工房	3月20日より再開
	のとじま水族館	7月20日より一部再開
	花嫁のれん館	4月1日より再開(時短営業)
	道の駅「いおり」	2月9日より再開
	道の駅「なかじまロマン峠」	2月9日より再開(時短営業)
	道の駅「のとじま」	館内立入禁止／7月20日より一部再開
	道の駅「能登食祭市場」	5月18日より一部再開
	和倉温泉	旅館21軒中18軒が休館／総湯は3月26日より再開
	和倉温泉お祭り会館	休業中
	和倉昭和博物館とおもちゃ館	休業中
輪島市	永井豪記念館	火災により全焼
	道の駅「赤神」	休業中
	道の駅「千枚田ポケットパーク」	休業中
	道の駅「のと里山空港」	2月29日より売店再開／3月2日よりレストラン再開
	道の駅「輪島」(ふらっと訪夢)	3月25日より再開(時短営業)
珠洲市	輪島ドラマ記念館	火災により全焼
	空中展望台「スカイバード」	4月27日より再開
	珠洲ビーチホテル	休業中
	道の駅「すず塩田村」	休業中
中能登町	道の駅「すずなり」	4月29日より再開
	道の駅「狼煙」	4月4日より再開
	雨の宮古墳群	閉鎖中
内灘町	石動山資料館	休業中
	内灘町サイクリングターミナル	5月29日より一部再開
能登町	イカの駅つくモール	4月8日より一部再開(時短営業)
	柳田植物公園	5月1日より一部再開
羽咋市	宇宙科学博物館 コスモアイル羽咋	1月24日より再開
	能登千里浜レストハウス	1月9日より再開
	道の駅「のと千里浜」	1月3日より再開
志賀町	いこいの村 能登半島	4月1日より日帰り利用を再開／6月1日より一般の宿泊利用を再開
	能登金剛遊覧船	5月より運航再開(週末運航)／7月13日より通常運航再開
	道の駅「ころ柿の里しか」	2月1日より再開(時短営業)
穴水町	道の駅「あなみず」	4月1日より一部再開／4月27日より通常営業
金沢市	金沢21世紀美術館	2月6日より無料エリアを一部再開／6月22日より全面再開

資料：石川県観光連盟及び各施設のウェブサイト等の情報をもとに(公財)日本交通公社作成

○能登空港の被害状況

石川県輪島市にある能登空港では震度6強を観測し、滑走路の亀裂やターミナルビルのガラスの破損等の被害が発生した。その後、滑走路等の復旧工事が行われ、1月27日より1日1往復、週3日の臨時便(羽田-能登線)を運航、4月15日からは1日1往復で毎日の運航を再開した。

○鉄道の被害状況

JR七尾線はホーム損傷等の被害を受け運休し、1月3日に一部区間(津幡～高松間)で運転を再開、その後も順次開通し、2月15日に全線で運転を再開した。また、4月27日より一部列車を除いて通常ダイヤでの運行を再開した。なお、金沢～和倉温泉間を結ぶ観光列車「花嫁のれん」は2024年7月時点で引き続き運休中である。

のと鉄道は、レール損傷等の被害を受け運休し、2月15日から七尾～能登中島間、4月6日より能登中島～穴水間(全線)で臨時ダイヤによる運転を再開した。また、7月20日より通常ダイヤでの運行を再開した。

○観光復興に向けた支援策「北陸応援割」

令和6年能登半島地震により観光需要の落ち込みが見られる富山、石川、福井、新潟の4県を対象として、旅行商品や宿泊料金の割引を支援するため「北陸応援割」が実施された。本キャンペーンは北陸新幹線が延伸開業した2024年3月16日より利用開始され、国内旅行者ならびに訪日旅行者を対象に旅行代金の最大50%が割引補助された。

富山、石川、福井の3県における各キャンペーンの概要は表IV-2-1-2のとおり。

表IV-2-1-2 各県の北陸応援割の概要

県名	キャンペーン名称	販売期間	利用期間	取扱旅行会社
富山県	とやま応援キャンペーン	3月8日～	3月16日～4月26日	・北陸地域4県に本社がある旅行事業者 ・過去の需要喚起施策で取り扱いが多かった事業者
石川県	いしかわ応援旅行割	第1弾：3月12日～ 第2弾：4月19日～	第1弾：3月16日～4月26日 第2弾：5月7日～7月31日	
福井県	ふくいdeお徳キャンペーン	3月8日～	3月16日～4月26日	・北陸地域4県に本社がある旅行事業者 ・福井県に営業所・支店がある旅行事業者

資料：北陸応援割ポータルサイト、各県のウェブサイトをもとに(公財)日本交通公社作成

○『行こうよ!北陸』キャンペーンの展開

2024年3月15日より、公益社団法人日本観光振興協会は民間事業者等と連携し「～その旅は、応援になる。～『行こうよ!北陸』キャンペーン」を開始した。本キャンペーンでは、早期の観光需要回復を実現することで地域に貢献することを目的とし、ウェブサイトやポスター、デジタルサイネージでの情報発信や、風評被害からの復興機運醸成のための共通ロゴの作成、配布等に取り組んでいる。

○「黒部宇奈月キャニオンルート」一般開放を2025年度以降へ延期(富山県)

黒部峡谷鉄道樺平駅(富山県黒部市)と黒部ダム(立山町)を結ぶ新ルート「黒部宇奈月キャニオンルート」は、2024年6月30日より一般開放、旅行商品化が予定されていた。

しかしながら、令和6年能登半島地震による落石で黒部峡谷鉄道の鐘釣橋が損傷したことから、富山県は2024年3月7日、開始を2024年10月1日頃に延期すると発表した。さらに、黒部峡谷鉄道による詳細な現地調査の結果、復旧工事に時間を要することから、2024年5月27日には2024年度中の開始を断念し、2025年度以降に再延期(具体的な開始時期は未定)すると発表した。

○輪島朝市が火災によりほぼ焼失、各地で出張開催(石川県)

輪島朝市が開催される朝市通り(石川県輪島市)の周辺では、地震により大規模な火災が発生し約4万9,000㎡を焼失した。朝市通りでの再開には時間がかかる見込みのため、2024年3月23日、金沢市金石地区にて、火災前の朝市の姿を再現した「出張輪島朝市」が開催された。「出張輪島朝市」はその後、石川県内外の各地で開催され、7月10日からは輪島市内の商業施設「ワイプラザ輪島」にて、毎日継続的に開催されている。

○「和倉温泉屋台村」オープン(石川県)

和倉温泉(石川県七尾市)周辺の被災した店舗が集まった「和倉温泉屋台村」が2024年4月28日より営業開始(4月20日よりプレオープン)した。期間限定の屋台村で、当初は7月31日までの予定だったが、10月31日まで延長された。

●令和5年奥能登地震が発生、「奥能登応援旅行割」キャンペーンを実施(石川県)

2023年5月5日、能登半島沖を震源とするマグニチュード6.5の令和5年奥能登地震が発生、石川県珠洲市で震度6強を観測した。この地震を受けて、石川県では奥能登2市2町(輪島市、珠洲市、穴水町、能登町)を対象とした「奥能登応援旅行割」を2023年7月21日から11月30日まで実施した。

●北陸新幹線延伸開業(石川県、福井県)

2024年3月16日、北陸新幹線の金沢～敦賀間125.1キロメートルが延伸開業した。途中駅として、小松、加賀温泉(以上、石川県)、芦原温泉、福井、越前たけふ(以上、福井県)の各駅が設けられた。東京～福井間は最速2時間51分となり、米原駅(滋賀県)経由で東海道新幹線と特急を乗り継いでいた従来のルートより33分の短縮となった。また、東京～敦賀間は最速3時間8分で結ばれる。

開業に合わせて並行在来線の北陸本線は、JR西日本から経営分離され、第三セクターのIRいしかわ鉄道(石川県内区間)、ハピラインふくい(福井県内区間)にそれぞれ移管された。

●新幹線駅からの観光バス運行の取り組み(福井県)

福井県内の貸し切りバス事業者5社と公益社団法人福井県バス協会は、はびバスコンソーシアムを結成し、北陸新幹線が延伸開業した2024年3月16日より、新幹線各駅等を発着点に県

内の観光地を巡る着地型観光バスツアー「はびバス」の運行を開始した。コンソーシアムによりバスツアーを催行する取り組みは全国初となる。

また、福井県の魅力を拡張現実(AR)・仮想現実(VR)映像で車窓や天井に映し出し、仮想空間体験を提供する「新感覚XRバス WOW RIDE いこっさ! 福井号」が、2024年6月1日より運行を開始した。福井駅と福井県立恐竜博物館、福井県立一乗谷朝倉氏遺跡博物館等を結ぶルートを運行する。

●「黄金KAIDO」プロジェクト始動(長野県、静岡県ほか)

新潟、長野、山梨、静岡の4県が連携し、静岡県の土肥と新潟県の佐渡を結ぶフェリーと高速道路を「黄金KAIDO」と名付け、観光誘客に取り組むプロジェクトが2023年5月よりスタートした。このルート上には、土肥金山(静岡県)、湯之奥金山(山梨県)、金鶏金山(長野県)、佐渡金山(新潟県)と各県に金山があることに由来して命名された。

4県の高速道路が定額で乗り放題となる「中央日本四県周遊プラン」や、ドライブプラン利用者向けのフェリーの割引が提供されているほか、ルート周辺の徳川家ゆかりのスポットを巡るデジタルスタンプラリー「葵の御紋巡礼の旅」キャンペーン等が実施されている。

また、ルートに含まれる駿河湾フェリーでは、2024年3月26日より、本プロジェクトにちなみ黄金に塗装したフェリーの運航を開始したほか、東海バスも黄金KAIDOラッピングバスを土肥周辺で運行している。

●新しい学び方「ラーケーションの日」の取り組み(愛知県)

愛知県では、2023年度より子どもの学び(ラーニング)と、保護者の休暇(バケーション)を組み合わせた「ラーケーションの日」の取り組みを開始した。「ラーケーションの日」は愛知県全体の「休み方改革」プロジェクトの中で生まれたもので、子どもと保護者等と一緒に、平日に校外で体験や探究の学び・活動に取り組める日と位置付けられており、活動例として地域の史跡巡り、自然体験、芸術鑑賞等が示されている。子どもは学校に登校しなくても欠席とはならず、保護者等の休暇に合わせて年に3日まで取ることができる。

②広域・市区町村レベル

●観光地域づくり法人(DMO)主体のライドシェア運行開始(石川県)

2024年3月12日より、石川県加賀市で「加賀市版ライドシェア」の運行が開始された。これは、自治体やNPOが交通空白地における移動の足を提供する「自治体ライドシェア」が2023年12月に規制緩和されたことを受け、地域DMOである一般社団法人加賀市観光交流機構が事業実施主体、加賀第一交通が運行・安全管理、Uber Japanがアプリ提供を行う三者協力体制で運行するものである。

2種免許の保持者、または大臣認定講習を受講済みの1種免許の保持者で、加賀市観光交流機構と業務委託契約を締結した地元住民14名(運行開始時点)がドライバーを務め、自家用車を利用してサービスを提供する。なお、予約・配車はUberのア

プリを介して行われ、支払いはキャッシュレス決済となる。

●レベル4自動運転による移動サービス(福井県)

福井県永平寺町で運行されている自動運転による移動サービス「ZEN drive」は、2023年5月28日より、国内初のレベル4自動運転(特定条件下における完全自動運転)を開始した。「ZEN drive」は2020年12月よりレベル2自動運転により営業を開始し、2021年3月からは遠隔監視・操作型のレベル3自動運転が行われていた。

運行は永平寺町から事業を委託された第三セクター、まちづくり株式会社ZENコネクトが担い、曹洞宗の大本山である永平寺の門前付近まで、鉄道の廃線跡を利用した遊歩道「永平寺参(まい)ろーど」の一部区間を走行する。

●「福井県立恐竜博物館」リニューアルオープン

2023年7月14日、福井県勝山市にある福井県立恐竜博物館がリニューアルオープンした。福井県立恐竜博物館は、2000年の開館から20年以上が経過していることから、北陸新幹線延伸にあわせてリニューアルが計画され、2022年12月以降休館し、増築・改修工事が行われてきた。通称“小タマゴ”と呼ばれる卵形ドームをもつ新館が増築される等、“オールシーズン体験可能な博物館にフルモデルチェンジ”をコンセプトに満足度を向上し、研究・情報発信の拠点として未来に続く博物館とするための機能強化が行われた。

●長野県白馬村、岐阜県白川村が「ベストツーリズムビレッジ」に認定

2023年10月18日(現地時間)、国連世界観光機関(UNWTO、現UN Tourism)は「ベストツーリズムビレッジ2023」を発表し、中部地方からは長野県白馬村、岐阜県白川村が認定された。白馬村は日本の民宿発祥の地として、地域資源を活かしたおもてなし精神等、また、白川村は合掌造りの集落を維持するための持続可能な取り組み等がそれぞれ評価された。

「ベストツーリズムビレッジ」は、持続可能な開発目標(SDGs)に沿って、観光を通じて文化遺産の保全や持続可能な開発に取り組む地域を認定するプロジェクトで、国内では2023年度の認定地域を含めて合計6地域が認定されている。

●「白川郷レスポンスブル・ツーリズム」特設サイトを公開(岐阜県)

岐阜県白川村は2023年12月27日、「白川郷レスポンスブル・ツーリズムサイト」を公開した。このサイトは観光庁の「サステナブルな観光に資する好循環の仕組づくりモデル事業」の助成を受け、日本語をはじめ英語、中国語等、5言語で公開されており、白川村が大切にしていることを丁寧に伝え、特に実践してほしいマナーを5つにしぼり紹介している。

白川村では、異なる文化や価値観をもつ観光客に具体的な行動を示したうえで、一緒に地域を守りましょうと伝え、責任ある観光(行動)を求めることが、白川村がこれまで取り組んできた観光マナー対策を包括的に進める方法として良い結果をもたらすのではないかという仮説(仮定)に基づき、レスポ

ンスブル・ツーリズム(責任ある観光)の要素を来訪者の受け入れ環境の向上の一環として取り入れた。

このほかの取り組みとして、冬の風物詩となっている白川郷ライトアップイベントは、2024年1月から2月の開催より完全事前予約の入場チケット制が導入された。また、2024年3月2日には、中部運輸局岐阜運輸支局が岐阜県警、岐阜県タクシー協会と連携し、違法な白タク排除に向けた啓発活動を行った。

●AIが目的地を提案する「名古屋観光デジタルマップ」(愛知県)

愛知県名古屋市は、2023年10月10日より観光分野におけるDX推進の一環として、AIが目的地を提案する機能をもったウェブアプリ「名古屋観光デジタルマップ」の運用を開始した。

このデジタルマップは従来の紙製の観光マップに代えて開発したもので、インバウンド向けに6言語で提供されている。名古屋市公式観光情報サイトのスポット情報やモデルコースがデジタルマップ上に掲載されており、AIにより利用者の興味や関心に基づいた観光スポットが提案される。

●メタバースを活用した観光の取り組み(三重県、長野県)

三重県鳥羽市では、鳥羽市広告宣伝戦略委員会がメタバース空間内に「鳥羽市メタバース特設観光案内所」を、2024年2月1日から2月29日までの期間限定で開設した。ディープで興味深い情報の提供を目的のひとつとしており、特設観光案内所内では市民の目線で撮影した写真や動画を視聴できる。また、2月7日には、鳥羽市の観光関係者等約30名が集まり、メタバース空間内のアバターキャラクター「あまちゃん」として答えるイベントが開催され、その様子がYouTubeにて生配信された。

一方、長野県安曇野市は、2024年2月29日に「安曇野観光メタバース」を開設した。メタバース空間内にはおすすめ旅行プランが提案されるルームや、観光ルートをシミュレーション、検討できるルーム等が設置されている。また、開設にあたってメタバース空間内でのオープニングイベントや、アンテナショップ「銀座NAGANO」にて「安曇野観光メタバース」を体験、PRするためのリアルイベント等が開催された。

(小川直樹)